

平成 30 年度第 1 回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会大山田地域部会
議事概要

■開催日時 平成 30 年 8 月 20 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

■開催場所 大山田農村環境改善センター 2 階 小会議室

■出席者（敬称略）

【委員】

藤森 莊剛（阿波地域住民自治協議会会長）、番條 克治（布引地域住民自治協議会会長）、奥 千史（山田地域住民自治協議会会長）、青木 義久（阿波地区区長会会長）、植田 眞一（山田地区区長会会長）、中西 宣幸（大山田地区老人クラブ連合会会長）、福平 悟（大山田地区民生委員児童委員協議会会長）、福地 申大（伊賀市障害者福祉連盟大山田支部支部長）、生間 慎二郎（伊賀市社会福祉協議会中部圏域課課長）、橋本 敏明（伊賀市商工会大山田支所支部長）

【事務局】

交通政策課 課長 福岡 秀明、副参事 吉岡 徹也、
主幹 坂森 莊平、主査 吉福 将徳
大山田支所 支所長 前山 恭子、振興課長 狩野 守正、
副参事 喜多田 秀樹

■傍聴者 0 人

■会議概要

1. 開会

【大山田支所 前山支所長挨拶】

支所長	お忙しい中、第 1 回地域公共交通活性化再生協議会大山田地域部会にお集まりいただき、ありがとうございます。本年度から阿波線が利用促進対策路線となり、路線維持のため何らかの対策をせねば路線の存続が困難な状況となっています。地域の皆様方におかれましても、この状況を理解いただきましてご協力をいただきますようお願いいたします。この後、事務局から説明がありますが、委員の皆様におかれましては、活発なご意見をいただき有意義な会議になればと思います。よろしくお願いいたします。
-----	--

【副部会長あいさつ】

副部会長	どの地域も高齢化が進み、公共交通の果たす役割がますます重要になってくると思います。本日は、真摯な検討等よろしくお願いいたします。
------	--

2. 協議事項

上野コミュニティバス「しらさぎ」の運行計画について

事務局から資料1～3に基づき説明

【質疑応答】

部委員	大山田から乗り継いでしらさぎを利用する人はどれくらいいるのか。このことを決めるのに上野の人から要望があってやっているのか、それとも庁舎が新しくできるからやるのか。
事務局	乗り継ぎのデータというのは取っていません。もう一点につきましては、新庁舎の開庁というのが主な改正の理由ですが、以前からルートが3つに分かれていて病院に乗り継いで行かなければならない場合は200円が2回の400円かかる、あるいは土日と平日ではルートと時刻が違うのでまぎらわしいというご意見がございました。そのあたりの市民の方のご要望にお答えして、1月の改正を目指していきたいというところでございます。
部委員	岡波総合病院が移転したときはどうなるのか。
事務局	岡波総合病院までは今のところ考えていない。
部委員	気になるのは、このバスを使う人が通院で使うのか、買い物で使うのかといったあたりだ。そういうアンケートは取ってないのか。
事務局	平成28年に乗込み調査をしており、病院、スーパーが圧倒的に多い傾向があります。
部委員	阿波から行った人が上野市駅でしらさぎに乗り継いだときに、料金の低減化をするといったことを考えてほしいと思った。通し料金にするとか。
事務局	阿波線が三重交通の営業路線で、しらさぎは市が委託して運行している路線ですので、通し料金でというのはすぐに反映するのは難しいかと思います。ただ、使いやすい料金体系にすると、乗り継いでいただきやすいと思うので、反映できるかというのはお約束できませんが、ご意見として伺っておきたいと思います。
部委員	できないと言ってしまうとそこで話が終わってしまう。今の施策は中心市街地ばかりだ。200円ですべての区間に乗せろというわけではないので、積極的に取り組んでほしい。
事務局	乗り継がれる方については、待ち時間を減らす等の改善を図っていきたいと考えています。
部委員	従来からの経由地点は外せないのだろうが、病院への通院を考えたルート設定をしてほしい。特に規模の大きな病院のことを考慮に入れてほしい。
部委員	どこから乗って、どう乗り継いで行っているのか。地元の集落で

	はあまりそういった話を聞かない。
事務局	過去に利用状況の調査をしてありますが、阿波線は営業路線なので乗り継ぎまで調べていない。しらさぎについては今のダイヤでも、すべての便が市民病院を経由しています。新しいルートでも、市民病院と市役所にすべての便が立ち寄るように設定しています。 また、阿波線については、三重交通と協議をしながら、今後どのようにしていくか検討していきます。
部委員	何らかの方法で皆に知らせないと皆が無関心で、バスを使う人がいなくなってしまう。
部委員	この便にこう乗って、こう行くと便利ですよというような情報提供をすればよい。
事務局	モデルルートの提供等、考えていきたい。現行の公共交通マップで、マイ時刻表をつくる欄を設けています。これも一つの方法と考えています。
部委員	三重交通の路線と行政バスが同じ経路を通ることができないと聞いた。しらさぎはどうか。
事務局	路線競合は数ヶ所で発生するので、三重交通と調整を行って進めています。許可自体は、運輸支局の判断にかかってくる。競合したから１００％だめというわけではない。
部委員	三重交通はやめるとしてはどうか。
事務局	今まで利用されている方もみえるので、基本は現状維持となります。三重交通も公共交通を担う企業であり、営利のみを追求する企業ではないと思うので、そのあたりは理解していただいていると思う。
部委員	市長は忍者で市の活性化を図っており、観光客が上野市駅へ集まってくる。上野市駅から、どこそこへ行ってはというＰＲをしてみてもは。
事務局	外向きにもＰＲしていければと考えています。
部委員	路線が通らないエリアの人たちはどうか。
事務局	どうしてもすべてを網羅することはできません。ただ、交通空白地をなくすための手段として、例えば地域運行バスがあります。目的に応じたバスで、今後このようなかたちが増えてくるのではないかと考えています。結構反響があり、いくつかの地域へ説明にあがっています。
部委員	コミュニティバスもないような地域はどうなるのか。このしらさぎは旧上野だけという感じがした。本当の中心部だけ。その周りはどうなのか。

事務局	路線バスやＪＲといった他の交通機関が補完しています。
部委員	交通の見直しについて、時代に応じたことをしていかなければならない。地域住民は、老人から乳幼児までいる。老人が多い大山田のことは特に考えてほしい。そのことを念頭に置いて改善していつてもらわないと。
部委員	大阪や京都のような市営バスにしてはどうか。そんなふうになれば結構乗ってくれるかと思う。大沢から千戸へ行くバスとか。
事務局	市営がいいのかどうかという判断は必要かと思います。バスというシステムでは、対応しきれない場合もあるかと思います。
部委員	伊賀も人が減っている。そういった状況を考えて運行しているようなところがあれば紹介してもらったり、話を聞きに行かしてもらったりしてみてもどうか。
部委員	バスを使って通院する人が何人か身近に見える。わかりやすさや利便性が大事だ。福祉的なこととかデマンドとか調べる必要があるのではないか。
部委員	地域振興という目線でもう少し見てほしい。財政状況が厳しいからこうするというのではなく、何事も地域振興をスタートにしてほしい。
部委員	難しいのは、新たなルート設定で始めたけれども、誰も乗ってくれないとかいったあたり。
事務局	新ルートで運行が始まったら、統計を取ったりすることも考えていきたい。
部委員	残業したら市の職員は、しらさぎで帰ることはできないのか。
事務局	いちばん遅い便で１８時５０分市役所発があります。あとは、四十九駅の活用を想定しています。
部委員	神戸の地域運行バスは丸山駅から出ているが、伊賀線に人が乗らなくなったということはないのか。
事務局	Aコープやコメリが最終目的地となっており、影響は最小限にとどまっていると考えています。
部委員	条件さえ整えば、地域運行バスはどこでもできる。もっと進めていつてはどうか。
事務局	まずはあるものを残すということを考えています。地元が路線バスは要らない、地域運行バスでということであればそれも一つの方法かとは思っています。
部委員	伊賀鉄道は毎年赤字で、赤字を解消するのは難しいと思う。ＪＲとかは運賃を上げていつている。伊賀鉄道も運賃を上げてはどうか。上げる機会を逸しているように見える。

事務局	近鉄時代より割高な運賃になっており、利用しにくくなったというご意見をいただいている。
部委員	以前は、坂下まで青山の行政バスが入っていて、そのまま青山町駅まで行けたため便利だったという方がみえた。
部委員	乗る人は本当にいない。
部委員	乗り継いで青山町駅まで行くのに、待たなくてはならないといったことはないのか。
部委員	その辺はちゃんと考えてくれている。
部会長	後日でも、こんな方法のほうが良いのではないか等あれば、市へ言っていきたいと思う。
事務局	阿波線については、乗っていただくことを地元で周知いただければと思います。現状としては、スクール混乗がないと厳しいかと思っています。スクール混乗については、教育委員会が市内全域で調整に入る予定です。

(以上)